

“ おもしろくて ためになる 学びの共有 ”

わかちあい

秋田県教育カウンセラー協会機関誌

教育カウンセラー

あきた

第10号

2006年(平成18年)3月11日発行

特別支援教育の 充実を目指そう

秋田県教育カウンセラー協会

代表 水戸谷貞夫

秋田県教育委員会では、軽度発達障害のある児童生徒に対する支援体制の整備状況の調査結果から、今後、保護者や専門家などとの連携を進める「特別支援教育コーディネーター」の研修を受けた教員を全ての公立小中学校に配置するなど、支援体制を充実させる方針であると報じられていた。これは、特別支援教育の充実を目指すことから喜ぶべきこととして歓迎したいし、早期の実施を望んでいるひとりである。

このことに関して、配慮してほしいいくつかを取り上げてみたい。

一つは、軽度発達障害は、学習障害(LD)、注意欠陥・多動性障害(ADHD)、高機能自閉症などの児童生徒に見られるとされているが、この子どもたちは、いわゆる普通の学級に所属し、そこで学んでいることである。

従って、教育・指導を担当するのは、学級担任、教科担当の教員である。この方々が、軽度発達障害に対する深い理解と温かい心、優れた指導力を持たれることが望まれていると考えたい。

二つめは、軽度発達障害を持つ児童生徒には、いくつかの重複する障害が見られる場合が少なくないということである。一般的には、A子はLDだ、B子はADHDだ、などと決めつけられがちだともうかがっている。

私の願いは、軽度発達障害を持つ児童生徒の一人ひとりが、そのニーズに適切な対応の下に学び、成長していけることである。この学級で暮らしたことが良かった、この先生との出会いが私を育ててくれた、などといえるような特別支援教育の充実を目指し続けることである。



* 参考文献としておすすめしたのは、『LD・ADHD・高機能自閉症の子どもの指導ガイド』国立特殊教育総合研究所、東洋館出版社で、事例を挙げて説明してあることなどからである。

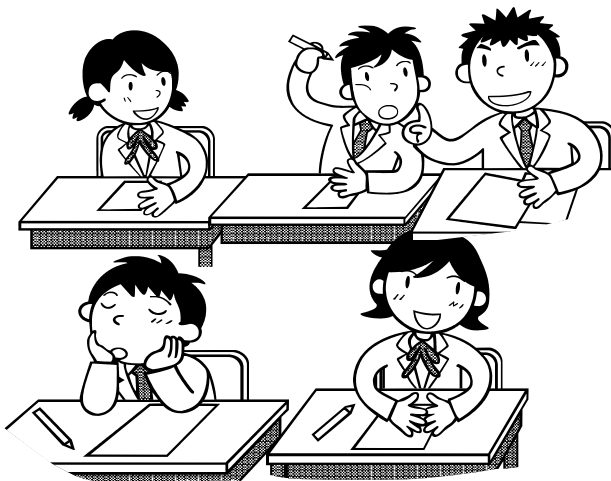
まなざしの効用

秋田市立泉中学校教諭 佐藤 健吉

生徒一人一人に視線を置くこと。日々の授業の中で私が心がけて実践していることだ。自分の授業の VTR を見てハッと冷や汗をかいたことがある。目は生徒の方を見ているが、生徒一人一人と目を合わせていなかったのである。VTR に手遊びをしている生徒が映っていたが、授業中に気付くことはなかった。私は授業崩壊の原因の一つは、この点に教師が気付いていないことにあるのではないかと思う。

視線を合わせるということは、「先生はあなたのことをいつも見ているよ。」という非言語性メッセージなのだ。以後、私は視線を心がけるようになった。

ごく最近のことだ、授業中に消しゴムのカスを丸めて飛ばそうとしている生徒がいた。私はその生徒に目線を送った。「作業に取り組もうね」と。生徒は都合が悪そうにしてノート作業に取り組み出した。まなざしの効用である。そのやりとりを他の生徒は知らない。教室は集中した雰囲気の時が流れていった。



生徒指導に関して役立つ

ワンポイントレッスン

協和病院心理判定員 浅沼 知一

今回の内容は、すでに多くの人を感じ、実行していることだろう。が、より意識的・効果的に使えるよう、整理して考えてみたい。



そのポイントとは、生徒指導を『戦略的』『戦術的』の2面から考える...である。

『戦略的』とは、「中・長期の計画」と同義であり、先々までを視野に入れて、生徒への関わりを考える...というイメージ。これに対し、生徒と会う「その時・その場」をどうするか...に着目すれば『戦術的』となる。

(物騒な戦争用語ではないので、ご安心を)

生徒指導では通常、「いかに理解させ、改善させられるか」の、戦術的思考をしている。だが、生徒側に受け入れの準備がない限り、一度の面接で理解に至ることは少ない。

そんな時、このセッションでの成果を求めらるのではなく、次回以降に繋げる・活かすという、戦略的発想に切り替えてはどうだろうか？

今後の指導効果を高め、改善に導く為に、教師と生徒が共同で課題に向かう姿勢を確認し、関係を良くすることを優先するのである。

少なくとも「今、ここ」の解決に固執し、強く長い関わりをして関係を悪化させる = 今後の指導を困難にする愚は避けられるはずだ。

学ぶって楽しい

秋田県立羽後高等学校 養護教諭

島田 牧子

「学校で使える・教師が日常的に使える」
カウンセリングを学び始めて5年になります。教員をはじめ、これまで様々な職種の方たちと仲間として学びあい、仲間たちがそれぞれの持ち場で学んだことを活かして活躍している話をたくさん聞いてきました。そこでいつも思っていたのは、「私は養護教諭として学んだことをどう活かせるだろう」ということでした。学びの中心となっていた構成的グループエンカウンターは元来、集団対象ですので、保健室での個別の関わりが多い養護教諭としてはどのように活かしていけるのが最初は正直わからず、学びながらも焦る気持ちが強かったように思います。でも、5年の間にその気持ちはずいぶん変わりました。5年間、少しも気持ちが冷めることなく学び続けていられるのは、ただただこの学びが楽しいからです。「学ぶって楽しい」心から実感しています。仲間と過ごす時間が心地良く、学びを通して自分が元気になれることをしみじみ感じます。「学んだことを活かそう！」と肩肘張らずに、今は心から楽しんでます。そして楽しく学んでいるうちに、自分がやるべきことも少しずつ見えてきました。自分がこの学びを通して感じている楽しさ・心地良さ・元気になれる気持ちを生徒や同僚の先生たちに伝えること。生徒が楽しく・心地よく・元氣よく学校生活が送れるようにサポートしていくこと。養護教諭であるからこそ見える生徒の実態や学校全体の課題もあります。そして養護教諭だからこそ個々の生徒と深い

関わりを持てるというリソースと、担任や学年部とは違った視点で全体へと働きかけていけるというリソースがあります。こうした養護教諭としてのリソースを活かし、保健室から育てるカウンセリングの発信をしていくことが私の教育カウンセラーとしての役目と感じて、取り組みを始めています。

子どもたちの笑顔にふれるのが

エンカウンターの最大の楽しみ

秋田市立太平小学校教諭 兒玉 信子

秋田県教育カウンセラー協会に所属して三年になりました。協会を通じて多くの学びの場に参加させていただき、日々の実践に大いに役立たせてもらっています。

特にここ数年で、子どもたちは大きく変わってきていると感じています。社会の目まぐるしい変化の中、我々大人も大切なものを見失いがちになりそうな時に、子どもたちの戸惑いや不安が痛いほど感じられることが多いように思います。

エンカウンターで互いに言葉を交わし、目を合わせ、笑い合う。エンカウンターでは、いつも素敵な子どもたちの笑顔に出会います。このささやかなふれあいを重ねていくことが、互いの心を和ませ、人とかかわることの楽しさを知る機会になると確信しています。

これまで学びの場に集う皆さんから、たくさんの元氣をいただきました。子どもたちの成長のために、学びの場を大切にしながら勉強を続けていきたいと思っています。



今後の事業計画

2006教育カウンセリング研修会

期日：2006年5月予定 13:00～16:00

コース別研修内容予定

「個別面接スキル」 講師：浅沼 知一

「学級で行うソーシャル・スキル・トレーニング指導の実際」

講師：佐藤さゆり

2006年度総会・講演会

期日：2006年7月上旬予定 13:30～16:30

2006年教育カウンセラー養成講座

10月7日(土)・8日(日)・9日(月)に決定!

詳細については後日、協会ホームページにてお知らせします。

秋田Q-U学習会 ～相互サポート&スキルアップ

4月22日(土) 「授業スキル」

～集団の理解を生かした授業の構成と展開」

6月3日(土) 「非社会的な問題行動への

対応」

8月19日(土) サマー1日研修

「コラージュ療法」講師：荒川由美子

11月11日(土) 「特別支援教育を生かした個に応じた授業の工夫」

2007年1月13日(土) ウィンター1日研修

「アサーション・トレーニングの理論と実際」

講師：苅間澤勇人

4月14日(土) 「学級集団の状態に応じた教師の指導行動」

6月2日(土) 「保護者とのコミュニケーションの工夫」

みんなでシェアしましょう!?

～今年の養成講座の振り返りから～

藤川先生の講義について

・藤川先生の講座で、自己開示の大切さについて考えた後で、國分先生の講座で、自己開示とカタルシスの違いについてのお話があり、ドキッとしました。これからは、お話しいただいた3点に気をつけていきたいと思います。

・普段、市町村を回ったりの教育相談、電話での相談等、個にあるいは1～2人の相談がほとんどなので、グループエンカウンターは新鮮に思え、同じ仕事の集まり等の際に、そうしたことを生かすことで、仲間間の癒しも考えてみたい。

花輪敏男先生の講義について

・細やかな母親へのアドバイス。以前から何となく思っていたことでした。未消化だったところがとれました。

・不登校生徒が出たり、その兆候があると、先生方は一様に「どうしたものか? どうすればあの生徒に元気を与えられるだろうか?」と悩んでおられる。よって各学校の生徒指導部の先生は、このような講座に出席し、聴講をされると良いと率直に思えた。それほど花輪先生のお話は貴重で、現場に役立つ内容であったと思う。(相談員なのに生意気な感想です。)

編・集・後・記

今年度の活動を来年度へのステップにしていきましょう!さらなる一步を!(Y)